

# 平成三十年歌会始御製御歌及び詠進歌

語

御製

語りつつあしたの苑そのを歩み行けば林の中にきんらんの咲く

皇后陛下御歌

語るなく重きを負おひし君が肩に早春の日差し静かにそそぐ

皇太子殿下

復興の住宅に移りし人々の語るを聞きつつ幸を祈れり

皇太子妃殿下

あたらしき住まひに入りて閑上ゆりあげの人ら語れる希望のうれし

文仁親王殿下

村人が語る話の端々はしはしに生業なりはひの知恵豊かなるを知る

文仁親王妃紀子殿下

人びとの暮らしに寄りそふ保健師らの語る言葉にわれ学びけり

眞子内親王殿下

パラグアイにて出会ひし日系のひとつとの語りし思ひ心に残る

正仁親王妃華子殿下

遠き日を語り給へる君の面おもいつしか和なごみほほゑみます

寛仁親王妃信子殿下

我が君と夢で語りてなつかしきそのおもひでにほほぬれし我

彬子女王殿下

祖母宮おほばみやの紡がれたまふ宮中の昔語りは珠匣しゆかふのごとく

憲仁親王妃久子殿下

学び舎やに友と集ひてそれぞれに歩みし四十年よそとせ語るは樂し

承子女王殿下

友からの出張土産にひめゆりの塔の語り部をふと思ひ出づ

絢子女王殿下

気の置けぬ竹馬の友と語り合ふ理想の未来叶ふときあれ

御製

語りつつあしたの苑そのを歩み行けば林の中にきんらんの咲く

天皇皇后両陛下は、毎日早朝に吹上御苑をご散策になることを日課とされていますが、特に毎日曜日は、東御苑を訪ねられ、二の丸、本丸の庭園をご覧になります。この御製は、春、ご散策の途中二の丸庭園の雑木林の中で珍しいキンランをお見つけになったときのことをお詠みになったものです。

(注) キンランは、天皇陛下が戦後間もない時期に小金井にお住みになったときに初めてご覧になった、お懐かしい思い出のある花です。

皇后陛下御歌

語るなく重きおを負ひし君が肩に早春の日差し静かにそそぐ

天皇陛下は、長い年月、ひたすら象徴としてのあるべき姿を求めて歩まれ、そのご重責を、多くを語られることなく、静かに果たしていらっしゃいました。この御歌は、そのような陛下のこれまでの歩みをお思いになりつつ、早春の穏やかな日差しの中にいらっしゃる陛下をお見上げになった折のことをお詠みになっていらっしゃいます。

## 皇太子殿下

復興の住宅に移りし人々の語るを聞きつつ幸を祈れり

皇太子殿下には、妃殿下と御一緒に、平成二十九年十一月に宮城県名取市閑上地区ゆりあげの中央第一団地を訪れられ、災害公営住宅の整備の進捗状況などの復興状況についての御説明をお受けになり、引き続き団地に入居された被災者の方々と御懇談になりました。

皇太子殿下におかれては、復興事業が着実に進み、被災した方々が安心して暮らせる環境が整いつつある様子をお聞きになり、安堵される一方、これまでの御苦勞を思われ、被災された方々一人一人の幸せを祈られた思いをお詠みになったものです。

## 皇太子妃殿下

あたらしき住まいに入りて閑上ゆりあげの人ら語れる希望のうれし

皇太子妃殿下には皇太子殿下と御一緒に、昨年十一月に宮城県の名取市閑上地区ゆりあげなどの被災地をご訪問になりました。その折、津波被害の大きかった閑上地区に新しく建てられた災害公営住宅に入居された被災者の方々が、生活環境が少しずつ整いつつある中で、今後に向けての希望を見出されてきたことを語られたことに安堵され、嬉しくお思いになりました。

このお歌は、その時のお気持ちを、被災された多くの方々のこれまでの御苦勞を思われながら、今後のさらなる復興を願われてお詠みになったものです。

## 文仁親王殿下

村人が語る話の端々に生業はしばしの知恵豊かなるを知るなりはひ

秋篠宮殿下は、ご研究の一環として、東南アジアの諸地域で地方の「村」を訪ねられることがよくありました。村人たちとお話をなさり、その地域の慣習や言い伝えの聞き取りをされるのですが、村人たちの話の端々に、暮らしについての知恵が含まれていることが多々あり、楽しくお聞きになりました。そのようなことを想い出されながら、詠まれたお歌です。また、日本国内でも、幾つかの地域で古老たちから話を聞かれ、同じように暮らしの知恵の豊かさを学ばれたことも、このお歌に重ねられています。

## 文仁親王妃紀子殿下

人びとの暮らしに寄りそふ保健師らの語る言葉にわれ学びけり

秋篠宮妃殿下は、総裁を務めていらつしやる結核予防会や母子愛育会でのご活動を通して、保健師が人々の暮らしに寄りそい、支えている様子をご覧になることや、保健師と地域の課題について話し合われることがあります。そうした折に保健師が語る言葉から、自分が受け持つ地域の人々への思いが伝わり、妃殿下ご自身が様々なことを学ばれているとお感じになっています。こうしたお気持ちを、このお歌にお詠みになりました。

眞子内親王殿下

パラグアイにて出会ひし日系のひとびとの語りし思ひ心に残る

眞子内親王殿下は、平成二十八年九月に、パラグアイ日本人移住八十周年に当たり、パラグアイ国をご訪問になりました。その際に、様々な場所で日本人移住者や日系人とお会いになり、お話をされる機会がありました。日系の人たちがそれぞれに語った思ひは、内親王殿下の心に強く残っていらつしやり、会話を思い出されながら、このお歌をお詠みになりました。

正仁親王妃華子殿下

遠き日を語り給へる君の面おもいつしか和なごみほほふみいます

お食事時じき、ふと昔の話になって、宮様が実にお懐かしそうにご両親陛下、ご姉きょうだい兄様の御事おんことをお話し始めになり、おみ顔がお和なごみになったご様子をお詠みになったものです。

寛仁親王妃信子殿下

我が君と夢で語りてなつかしきそのおもひでにはほぬれし我

寛仁親王五年式年祭を終え、昨今懐かしい思い出ばかりを夢の中で宮様とお話を遊ばしてこられました。五年の年月が過ぎてしまったのを実感遊ばし自然に涙が流れてしまわれ、このお歌をお詠みになりました。

彬子女王殿下

祖母宮おほばみやの紡おほがれたまふ宮中の昔語りは珠匣しゆかふのごとく

三笠宮妃殿下に日々様々なお話を聞かれる中で、とりわけ妃殿下のご結婚当時から宮中での思い出話の数々は、宝石の詰まった箱のようにきらきらと輝いており、そのお話を聞かれるお時間も女王殿下にとっては、宝箱にしまふ宝石のように大切なものであるという思いを込めて詠まれたものです。

憲仁親王妃久子殿下

学び舎やに友と集ひてそれぞれに歩みし四十年よそとせ語るは樂し

英国の大学にて創立記念の行事があり、当時の同級生と集まった時のことを詠まれたものです。

承子女王殿下

友からの出張土産にひめゆりの塔の語り部をふと思ひ出づ

ひめゆりの塔を初めて訪問された小学生の頃に資料館でお話をお聞きになった、ひめゆり学徒隊の生存者でいらっしやる語り部べの方々を想って詠まれたものです。

絢子女王殿下

気の置けぬ竹馬の友と語り合ふ理想の未来叶ふときあれ

大人になるにつれ様々なつながりから友人・知人は増えていくものですが、やはり幼少期を共に過ごした幼馴染たちはご自身にとって特別な存在とのことです。そして近年幼馴染と会うときには近況報告や他愛のない話に加え、将来のことを話されるようになりました。

それぞれが抱く小さな夢や大きな目標、それに向かって日々努力していく中で、それらが近い将来もしくはいつか、叶うことを願って詠まれたものです。



召人 黒井千次  
語るべきことの数々溢れきて生きし昭和を書き泥なつみみる

召人控 鷹羽狩行  
あらたまの空を仰げば連峰の近づきってくる語りあふがに

選者 篠 弘  
街空に茜あかねは冴ゆれ語らむと席立ちあがるわが身の揺らぐ

選者 三枝昂之  
語ることは繋ぎゆくこと満蒙まんもうといふ蜃気楼阿智村あちむらに聞く

選者 永田和宏  
飲まうかと言へばすなはち始まりて語りて笑ひてあの頃のわれら

選者 今野寿美  
歌びとは心の昔に触れたくてたそがれ色の古語いとほしむ

選者 内藤 明  
語り了をへ過ぎにし時間かへり来ぬ春の雪降る卷末の歌

選 歌 (詠進者生年月日順)

アメリカ合衆国 鈴木敦子  
カリフォルニア州

母国語の異なる子らよ母われに時にのみ込む言葉もあるを  
長野県 塩沢信子

片言の日本語はなす娘らは坂多き町の工場を支ふ  
広島県 山本敏子

広島のある日を語る語り部はその日を知らぬ子らの瞳めの中

福井県 川田邦子  
突風に語尾攪はれてそれつきりあなたは何を言ひたかつたの

長崎県 増田あや子  
いつからか男は泣くなど言はれたり男よく泣く伊勢物語

東京都 川島由紀子  
耳元に一語一語を置きながら父との会話またはづみゆく

神奈川県 三玉一郎  
語らひに時々まじる雨の音ランプの宿のランプが消えて

神奈川県 浜口直樹  
多言語の間診票を試作して聴くことの意味自らに問ふ

新潟県 南雲 翔  
通学の越後線でも二ヶ国語車内放送流れる鉄橋

長崎県 中島由優樹  
文法の尊敬丁寧謙讓語僕にはみんな同じに見える

佳 作 (詠進者生年月日順)

富山県 山田久二  
陽の沈みきらない夜もロシア語もおぼろとなりぬ白鳥を見送る

山口県 中西輝磨  
語尾ながく終着駅を告ぐる声聞きつつ歩むプラットホームを

新潟県 阿部昌彦  
私語のなき授業となりて定年のわれへの花束奥に見えたり

岐阜県 加藤シズカ  
採りたての焼き竹の子を振舞つてまづは語ろう熊との出合ひ

ブラジル国  
サンパウロ州

山元治彦

日本語のいしぶみ多きこの国は同胞容れてふところ深し

福岡県 白谷明美

語らひて考へ二つ立ち上がりなほ語らひて一つとなりぬ

山口県 木村桂子

芋畑にとつさに飛び込み伏したりと六歳の夏を語り始める

福島県 阿曾昭二郎

少しだけ話し多くを語らせて笑みつつ去りぬ若きナースは

千葉県 粕谷征三

かたくなに捕虜たりし日に触れざるも酔ひたる父の片言英語

岩手県 高橋悦朗

てんでんこ語り継ぐべき五文字なり塀行く猫よ子猫に告げよ

香川県 藪内眞由美

水底にナウマン象の物語ねむらせ黄金の瀬戸の夕映え

東京都 竹内智佳子

語ること少なくなりし少年の剣道着干す秋のベランダ

東京都 岡本万寿子

春風とともに巣立った子の部屋に国語辞典の空箱ひとつ

静岡県 山形陽子

いつからか敬語を使はぬやうになり年上の彼は夫となりぬ

京都府 大井亜希

思つてた未来ぢやないけど楽しいと過去の私に語りに行かう

新潟県 山本英史子

糍<sup>かうぢ</sup> つくる母は手のひらで今日もまた米と菌との語らひを聴く

新潟県 八幡僚祐

友人と二人未来を語った日僕の進路は角度を変へた

新潟県 小川紗季

単語帳ばらりとめくるふりをしてあともう少し君に近づく

東京都 菊地愛佳

息深し「それから」と言ふ語り部の今も忘れぬ蒼く遠き日